

## 令和 4 年度 北海道地区会議事業報告

事業名	時期	場所	事業内容
地区会議運営協 議会の開催	令和 4 年 6 月 9 日 (木)	ウェブ開催	議題 (1) 令和 4 年度日本学術会議北海道地区会議学術講演会について (2) 日本学術会議サイエンスカフェの実施について
	令和 5 年 2 月 2 8 日 (火)	文書開催	議題 (1) 令和 5 年度日本学術会議北海道地区会議事業計画(案)について 報告 (1) 令和 4 年度サイエンスカフェの中止について (2) 令和 4 年度日本学術会議北海道地区会議事業実施報告について
公開シンポジウム(学術講演会)の開催	令和 4 年 8 月 1 6 日 (火)	北海道大学 (オンライン配信)	テーマ 「地球環境の未来を考える～カーボンニュートラルの実現に向けて～」 詳細は別添のとおり (参加者 271 名)
地区会議ニュースの発行	令和 5 年 3 月		No. 53 を発行し、北海道地区の日本学術会議会員・連携会員及び教育研究機関等へ配付

2050年までにカーボンニュートラル（ネットゼロ）の実現が世界各国の共有の目標となっています。カーボンニュートラルの実現には、森林や土地利用といった環境や持続可能な農業政策はもちろん、エネルギー、建築物、交通を含むインフラなどのあらゆる産業において急速で広範囲なかつてない規模の社会の変革・移行が必要となっています。

本シンポジウムでは、地球環境や気候変動とカーボンニュートラルの関連性やその実現に向けた産業構造の変革について先進的研究を講演頂くとともに、カーボンニュートラル実現社会への学術研究の期待や貢献および課題について、学生たちと共に議論します。

令和4年 **8月16日** 火  
13:30~17:40

オンライン開催

事前参加申し込み制

参加費無料

# 地球環境の未来を考える

## 「カーボンニュートラルの実現に向けて」

13:30~13:40 **開会挨拶**

梶田 隆章 (日本学術会議会長・第三部会員、東京大学宇宙線研究所教授)  
吉村 忍 (日本学術会議第三部会員・部長、東京大学副学長・大学院工学系研究科教授)  
寶金 清博 (日本学術会議連携会員、北海道大学総長)

13:40~14:15 **基調講演 「カーボンニュートラルの実現に向けて」**

高村ゆかり (日本学術会議副会長・第一部会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授)

14:15~14:40 **講演 1 「ゼロカーボン北海道:未来をつくること」**

山中 康裕 (北海道大学大学院地球環境科学研究院教授、国連大学認定RCE北海道圏副代表)

14:50~15:15 **講演 2 「北海道のバイオマス利活用の意義～事例を踏まえて～」**

石井 一英 (北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点代表、大学院工学研究院教授)

15:15~15:40 **講演 3 「東北の未利用資源の経済的な循環で創り出す未来」**

北川 尚美 (日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科教授、フェイトケミカルプロダクツ(株)CTO)

15:40~16:05 **講演 4 「新しい九州経済を創りだす再生可能エネルギー」**

木村誠一郎 ((一社)離島エネルギー研究所代表、(公財)自然エネルギー財団上級研究員、九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所招聘研究員)

16:15~17:35 **総合討論 テーマ「地球環境の未来を考える」**

モデレータ 大場みち子 (日本学術会議第三部会員、公立はこだて未来大学教授)  
パネリスト 高村ゆかり、山中 康裕、石井 一英、北川 尚美、木村誠一郎、藤岡沙都子 (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、慶応義塾大学准教授)

17:35~17:40 **閉会挨拶**

俣野 茂 (日本学術会議第三部会員・北海道地区会議代表幹事、北海道大学客員教授・名誉教授)



参加申込

参加を希望される方は、8月14日(日)までに下記URL、又は右のQRコードからお申し込み下さい。



URL <https://forms.gle/pf1yg8uwtAWUGkGi8>

お問い合わせ先

日本学術会議北海道地区会議事務局  
(北海道大学 研究推進部 研究振興企画課)  
Tel: 011-706-2155・2166 Fax: 011-706-4873  
e-mail: [suishin\\*general.hokudai.ac.jp](mailto:suishin*general.hokudai.ac.jp)  
(上記mailアドレスの\*マークを@に変えてお送りください。)

## 令和4年度 東北地区会議事業報告

事業名	時期	場所	事業内容
○「日本学術会議in 宮城」 ・幹事会懇談会	令和4年 11月5日(土) 10:30～12:00	東北大学部 局長会議室 とオンライン によるハイ ブリッド開催	日本学術会議幹事会、地方学術会議委員 会委員、東北地区会議構成員、東北 地区産学官代表者との懇談 【テーマ】 ニュー・ノーマル時代の研究教育の在り方
・公開学術講演会	13:30～16:55	東北大学片 平さくらホー ルとオンライ ンによるハイ ブリッド開 催	【テーマ】 積雪・寒冷地域における暮らしのこれま でとこれから—持続可能な発展のため の冰雪圏からの視座— 【講演者】 1. 伊藤 大介 (東北学院大学教養教育センター 助教) 2. 下野 裕之 (日本学術会議連携会員、岩手大学農 学部 教授、岩手大学次世代アグリノ ベーション研究センター センター長) 3. 根本 征樹 (防災科学技術研究所雪氷防災研究セ ンター雪氷環境実験室 室長) 4. 岩本 洋子 (広島大学大学院統合生命科学研究科 准教授) 5. 高倉 浩樹 (日本学術会議東北地区会議会員、東 北大学東北アジア研究センター 教授) ◇参加者 約80名 オンデマンド配信 約100名
○東北地区会議運営 協議会	令和5年 2月13日(月) 15:00～16:00	オンライン開 催	令和4年度事業報告及び 令和5年度事業計画の審議
○地区会議ニュース の発行(No. 37)	令和5年3月		掲載内容 「日本学術会議 in 宮城」開催報告他

# 積雪・寒冷地域に おける暮らしの これまでとこれから

— 持続可能な発展のための冰雪圏からの視座 —

わが国は、夏季は温暖であるが、冬季は積雪や凍結に見舞われる地域が多く、人々は工夫を凝らしながら暮らしてきた。また、近代化に伴い、寒冷地ではない都市部でも少量の積雪や凍結が経済活動に混乱を来すようになっている。

本講演会では、日本のみならず世界にも目を向け、寒冷な地域での人々の暮らしについて、歴史学、社会人類学、農学、雪氷学、環境学の専門家からお話を伺い、今後、私たちの生活様式の変化や気候変動が寒冷地域にもたらす新たな課題と、その課題にどのように向き合っていく必要があるかを参加者とともに考えたい。

〈 日 時 〉

令和4年 **11月5日** 土  
13:30~16:55

〈 開催形式 〉

オンライン開催  
(ZOOMウェビナー)

※事前登録制(先着500名)

参加申込方法

参加を希望される方は**10/30(日)**までに下記URLまたは右のQRコードより事前申込をお願いします。定員になり次第、事前申込の受付は終了します。



URL

<https://forms.gle/dPQkDNYKt1rPp94F9>

〈 現地会場 〉

東北大学片平キャンパス内  
※事前案内済の関係者のみ現地参加可

〈 次 第 〉

司会進行：武藤 由子 (日本学術会議連携会員、岩手大学農学部 准教授)

**1 開会挨拶** 13:30~13:40

日本学術会議会長 梶田 隆章  
東北大学総長 大野 英男 (日本学術会議連携会員)

**2 講 演** 13:40~16:25

① 昭和初期の雪害運動について

伊藤 大介 (東北学院大学教養教育センター 助教)

② 北国の農業を支える寒さ、涼しさ、雪の恩恵

下野 裕之 (日本学術会議連携会員、岩手大学農学部 教授、  
岩手大学次世代アグリイノベーション研究センターセンター長)

休憩

③ 雪氷災害と雪氷環境およびその変化について

根本 征樹 (防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 雪氷環境実験室 室長)

④ 大気中の微粒子とその気候影響 — 積雪・寒冷地域での大気観測例を交えて

岩本 洋子 (広島大学大学院統合生命科学研究科 准教授)

⑤ 氷の文化誌—永久凍土の恵みと災い

高倉 浩樹 (日本学術会議東北地区会議会員、東北大学東北アジア研究センター 教授)

**3 質疑応答** 16:25~16:50

**4 閉会挨拶** 16:50~16:55

佐藤 嘉倫 (日本学術会議東北地区会議代表幹事、  
京都先端科学大学人文学部学部長・教授、東北大学大学院文学研究科 教授)

〈 お問合せ先 〉 東北大学研究推進課 TEL: 022-217-4840 E-mail: kenkyo@grp.tohoku.ac.jp

## 令和4年度 中部地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
中部地区会議 運営協議会	第1回 令和4年 7月8日	長野県 信州大学 (オンライン会議)	1) 中部地区会議運営協議会について 2) 地区会議代表幹事の報告 3) 学術講演会について 4) 地区会議ニュースについて 5) 令和3年度中部地区会議事業実施報告について 6) 次回地区会議の開催について
	第2回 令和4年 12月9日	三重県 三重大学 (オンライン会議)	1) 中部地区会議運営協議会について 2) 地区会議代表幹事の報告 3) 学術講演会について 4) 地区会議ニュースについて 5) 令和5年度中部地区会議事業実施計画について 6) 次回地区会議の開催について
科学者懇談会 各県幹事との 打合せ会	第1回 令和4年 7月8日	長野県 信州大学 (オンライン会議)	1) 科学者懇談会について 2) 科学者懇談会会員について 3) 日本学術会議第184回総会の報告について 4) 学術講演会の進め方について
	第2回 令和4年 12月9日	三重県 三重大学 (オンライン会議)	1) 科学者懇談会について 2) 科学者懇談会会員について 3) 日本学術会議第186回総会の報告について 4) 学術講演会の進め方について
学術講演会	第1回 令和4年 7月8日	長野県 信州大学 (オンライン開催)	テーマ 「環境教育・環境研究を通じた地域貢献」 詳細は別紙のとおり (参加者115名)
	第2回 令和4年 12月9日	三重県 三重大学 (オンライン開催)	テーマ 「三重の海の多様性から広がる学術研究」 詳細は別紙のとおり (参加者113名)
地区会議ニュースの発行 No. 152 No. 153	令和4年10月 令和5年3月		発行部数 504部 発行部数 504部

# 環境教育・環境研究を 通じた地域貢献

令和4年度から始まった中期目標・中期計画では、国立大学には従来の使命に加え、高度にレジリエントで持続可能な社会構築への貢献、デジタル技術を駆使した教育・研究・社会貢献の機能強化、地方創生の中核としての役割の強化等、より一層の社会貢献への責務が求められています。信州大学では、信州の豊かな自然環境に囲まれた立地という好条件に恵まれ、多くの教員・研究者が環境教育・環境研究に取り組んでおり、また、大学の地域貢献度調査(※)においては常に上位にランキングする等、地域貢献を大学の理念として掲げ、日々活動しています。2030年のSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け、大学の教育・研究が、地域の発展にどのように貢献できるかのヒントとして、信州大学が環境教育・環境研究を通じて行っている地域貢献の活動についてご紹介します。

※大学の地域貢献度に関する全国調査(日本経済新聞社)

**信州大学** 松本市旭  
3-1-1

7/8 金  
13:00▶16:00

- 13:00▶13:10 ● 開会挨拶 信州大学長 中村 宗一郎
- 13:10▶13:20 ● 日本学術会議副会長挨拶 日本学術会議副会長 高村 ゆかり
- 13:20▶13:30 ● 主催者挨拶  
日本学術会議中部地区会議代表幹事 池田 素子  
(日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)
- 13:30▶13:40 ● 科学者との懇談会活動報告 中部地区科学者懇談会幹事長 松田 正久
- 13:40▶15:55 ● 活断層地震研究を地域に還元する  
学術講演会 信州大学教育学部教授 廣内 大助
- DNA解析から紐解く信州の生物多様性  
信州大学理学部教授 東城 幸治
- 16:00 ● 閉会挨拶  
司会 日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 中山 淳  
(日本学術会議連携会員、信州大学医学部教授)

**参加費無料** どなたでも  
参加できます

【お問い合わせ】

日本学術会議中部地区会議事務局 (名古屋大学研究協力部研究企画課内)

TEL: 052-789-2039 FAX: 052-789-2041

信州大学総務部総務課

TEL: 0263-37-2112 FAX: 0263-36-6769

<https://www.scj.go.jp/ja/area/index.html>

**オンライン開催**

【参加申込方法】

参加を希望される方は7/1(金)までに下記URL  
またはQRコードより事前申込みをお願いいたし  
ます。定員になり次第、事前申込みの受付は終了  
いたします。



<https://forms.gle/kTpRZFUxM1ixa7Az9>

# 三重の海の多様性から 広がる学術研究

海に囲まれた海洋国日本のなかでも、古くから海との関わりが深い三重。穏やかな内海の伊勢湾、リアス式海岸の志摩半島、そして黒潮の影響を強く受ける熊野灘と続く海岸線は、多種多様な海洋資源に恵まれています。三重大学では、この豊かな三重の海をフィールドにした様々な研究を行ってきました。本講演会では、志摩漁村の海藻漁の展開がもたらした近代東アジアの海藻流通構造の転換に関する研究、そして、異なる海洋環境をもつ2つの海に生息する鯨類の生態研究について紹介します。

令和  
4年 **12月9日** 金  
13:00▶16:00

**参加費  
無料**  
どなたでも  
参加できます

13:00▶13:10

**開会挨拶** 三重大学学長 **伊藤 正明**

13:10▶13:20

**日本学術会議副会長挨拶** 日本学術会議副会長 **高村 ゆかり**

13:20▶13:30

**主催者挨拶**

日本学術会議中部地区会議代表幹事 **池田 素子**  
(日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

13:30▶13:40

**科学者との懇談会活動報告** 中部地区科学者懇談会幹事長 **松田 正久**

13:40▶15:55

**近代東アジアの海藻文化**  
～志摩漁村から描くグローバルヒストリー～

**学術講演会**

三重大学人文学部教授 **塚本 明**

**鯨類の生態の謎を解き明かす**

～伊勢湾と熊野灘の多様なクジラとイルカの物語～

中部地区科学者懇談会三重県幹事、三重大学大学院生物資源学研究科教授 **吉岡 基**

16:00

**閉会挨拶**

副会 日本学術会議連携会員、三重大学大学院医学系研究科教授 **村田 真理子**

**三重大学** 津市栗真町屋町1577

**オンライン開催**

<https://forms.office.com/r/7tJDHy3yyR>

**【参加申込方法】**

参加を希望される方は12/2(金)までに左記URLまたはQRコードより事前申込みをお願いいたします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了いたします。



## 令和4年度 近畿地区会議事業報告

### ■日本学術会議近畿地区会議学術講演会

テーマ：「総合知をはぐくむ学び」

日時：令和4年9月19日（月・祝）13:00～17:00

主催：日本学術会議近畿地区会議、日本学術会議総合工学委員会、京都大学

後援：公益財団法人日本学術協力財団

場所：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール（オンライン・対面併用開催）

参加者数：約340名（うちオンライン約300名）

<プログラム>

開会挨拶：菱田 公一（日本学術会議副会長、日本学術会議第三部会員、明治大学研究・知財戦略機構特任教授）  
時任 宣博（京都大学理事、副学長）

趣旨説明：小山田 耕二（日本学術会議近畿地区会議代表幹事、日本学術会議第三部会員、京都大学学術情報メディアセンター教授）

#### 【講演】

招待講演1：「現場での取組— 高大接続における総合知」

西 泰子（学校法人須磨学園理事長）

招待講演2：「総合知に向けた大学での学びのデザイン— 専門知・集合知・総合知」

松下 佳代（日本学術会議第一部会員、京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

招待講演3：「デザイン思考・アート思考の活用」

武井 涼子（グロービス経営大学院教授、声楽家）

#### 【パネル討論・全体総括】

パネリスト：上記講演者に加えて、

話題提供者1「総合知をはぐくむ総合知教育基盤」

黒岩 友樹（株式会社ベネッセコーポレーション 大学・社会人カンパニー 社会人教育事業部 事業企画推進課 大学事業責任者）

話題提供者2「スタートアップにおける取組—イノベーションと総合知」

武田 秀太郎（九州大学都市研究センター准教授）

コーディネータ：小山田 耕二（日本学術会議近畿地区会議代表幹事、日本学術会議第三部会員、京都大学学術情報メディアセンター教授）

朗読音楽劇場：ウェルビーイング体感ユニット「ことばとおとのかたち」

閉会挨拶：高山 佳奈子（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授）

総合司会：矢野 桂司（日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授）

### ■日本学術会議近畿地区会議運営協議会・学術文化懇談会

日時：令和5年3月2日（木）開催

議題：令和4年度事業報告について  
令和5年度事業計画について  
令和5年度近畿地区会議学術講演会について  
近畿地区会議代表幹事の交代について 他

### ■地区会議ニュースの発行（No. 32）

令和5年3月

発行部数 1,000部

# 総合知 をはぐくむ学び



2022年  
9月19日月・祝 13:00～17:00

京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール(京都市左京区)

事前参加申込制  
どなたでもご参加いただけます。

参加費無料

オンライン・  
対面併用開催

多様で複雑な問題に向き合う際に、従来の欠如モデルに限界が指摘されている。欠如モデルとは、人びとが科学を受容しなかったり、科学について不信を抱いたりするのは、人びとの科学的知識の欠如が原因だから、人びとの科学的知識を増やせば問題は解消するはずだという想定を指す。この限界に対処する新たな一つの切り口として、具体的には、SDGsにおける諸目標(カーボンニュートラルの目標など)や世界平和の達成において、専門知に加えて、総合知に注目が集まっている。ここで、総合知とは、問題解決において、人文・社会・自然科学における知識を横断的に活用するための素養のことを指す。総合知をはぐくむにはどのような教育が望ましいかについて、以下の観点で議論を促進したい。

1. 総合知が重要な役割を果たすのはどのような場面か?
2. 総合知と専門知との関係をどう確立すればよいか?
3. 総合知をはぐくむためにデザイン思考・アート思考をどう活用すればよいか?

上記の問いに対し、多様な立場からの問題提起、報告を踏まえ、議論を行いたい。

## 開会挨拶

菱田 公一(日本学術会議副会長、日本学術会議第三部会員、  
明治大学研究・知財戦略機構特任教授)

時任 宣博(京都大学理事、副学長)

## 趣旨説明

小山田耕二(日本学術会議近畿地区会議代表幹事、日本学術会議第三部会員、  
京都大学学術情報メディアセンター教授)

## 講演

招待講演1 「現場での取組—高大接続における総合知」  
西 泰子(学校法人須磨学園理事長)

招待講演2 「総合知に向けた大学での学びのデザイン—専門知・集合知・総合知」  
松下 佳代(日本学術会議第一部会員、京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

招待講演3 「デザイン思考・アート思考の活用」  
武井 涼子(グロービス経営大学院教授、声楽家)

## パネル討論・全体総括

パネリスト 上記講演者に加えて、

話題提供者1 「総合知をはぐくむ総合知教育基盤」

黒岩 友樹(株式会社ベネッセコーポレーション大学・社会人カンパニー 社会人教育事業部  
事業企画推進課 大学事業責任者)

話題提供者2 「スタートアップにおける取組—イノベーションと総合知」

武田秀太郎(九州大学都市研究センター准教授)

コーディネータ 小山田耕二(日本学術会議近畿地区会議代表幹事、日本学術会議  
第三部会員、京都大学学術情報メディアセンター教授)

## 朗読音楽劇場

ウェルビーイング体感ユニット「ことばとおとのかたち」

演 奏 鈴木 孝紀(クラリネット) 愛川 聡(ギター)  
三浦 摩紀(言葉ウェルビニスト)

## 閉会挨拶

高山佳奈子(日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授)

## 総合司会

矢野 桂司(日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授)

【お問合せ先】日本学術会議近畿地区会議事務局  
(京都大学研究推進部研究推進課内)

Tel:075-753-2270 Fax:075-753-2042

E-mail:scj-kinki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

【参加申込方法】

参加を希望される方は、9月14日(水)までに下記 URL または QR コード  
より事前申込をお願いいたします。(対面・オンライン参加共通)

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0123.html>



## 令和4年度 中国・四国地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
・学術講演会	令和4年 11月26日	香川大学 (ハイブリッド開催)	<p>学術講演：テーマ「VUCA時代における諸課題への分野横断的アプローチ」</p> <p>開会挨拶（以下敬称略）</p> <p>1) 高村 ゆかり（日本学術会議副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授）</p> <p>2) 笥 善行（香川大学長）</p> <p>趣旨説明</p> <p>堤 英敬（日本学術会議連携会員、香川大学法学部教授）</p> <p>講演</p> <p>1) 「創発的アプローチの重要性と実践への取り組み」板谷 和彦（香川大学地域マネジメント研究科教授）</p> <p>2) 「ICF（国際生活機能分野）と新しい能力観を考える」坂井 聡（香川大学教育学部教授）</p> <p>3) 「医療の高度化と生命をめぐる法的課題」平野 美紀（香川大学法学部教授）</p> <p>4) 「地方のまちなか再生をめぐる分野横断の必要性和課題点」西成 典久（香川大学経済学部教授）</p> <p>5) 「災害軽減のための分野横断的アプローチ」梶谷 義雄（香川大学創造工学部教授）</p> <p>6) 「高齢者にとっての災害公営住宅の暮らしやすさ」中島 美登子（香川大学創造工学部准教授）</p> <p>閉会挨拶</p> <p>相田 美砂子</p>

<p>・第1回 地区会議運営 協議会</p>	<p>令和4年 11月26日</p>	<p>香川大学 (ハイブリ ッド開催)</p>	<p>運営協議会： 1) 令和5年度公開学術講演会について 2) 令和4年度公開学術講演会について 3) 令和4年度地区ニュース (NO. 54) に ついて 4) 地区会議の動向(「学術の動向」)につ いて 5) 運営協議会委員の交代について</p>
<p>・第2回 地区会議運営 協議会</p>	<p>令和5年 3月8日</p>	<p>広島大学 (オンライ ン開催)</p>	<p>運営協議会： 1) 令和4年度事業報告及び令和5年度 事業計画について 2) 令和5年度公開学術講演会について 3) 地区会議の動向(「学術の動向」)につ いて</p>
<p>・地区会議ニュ ースの発行 (NO. 54)</p>	<p>令和5年 3月</p>		<p>中国・四国地区の日本学術会議会員・連 携会員及び教育権機関へ配布</p>
<p>・地区会議の動 向(「学術の動 向」)について</p>	<p>年1回</p>		<p>1) 令和4年度公開学術講演会報告 ※令和5年2月号掲載</p>

# VUCA時代における諸課題への 分野横断的アプローチ

## 参加費無料

どなたでもご参加いただけます

現地参加  
会場定員 **70名**

Zoomによるオンライン  
配信も行います

## 開催日時・会場

令和4年

**11月26日** (土)

13:30~17:10

香川大学 **オリーブスクエア  
多目的ホール**  
香川県高松市幸町1-1

## 申込方法

定員となり次第、現地参加の受付は終了します

現地参加、Zoomによるオンライン  
参加とも11月22日  
(火)までに下記URL  
または右のQRコード  
より、事前申し込み  
をお願いします。



[https://forms.office.com/  
r/R4DHD2gXFJ](https://forms.office.com/r/R4DHD2gXFJ)

現代は、Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字からVUCA時代とも称されます。こうした現代社会が直面する様々な課題に対しては、異なる分野の知見を組み合わせることが解決の足がかりになると期待されます。本講演会では、VUCA時代における分野を横断した様々な課題に対して学術的にどのようにアプローチできるか、また、分野横断的なアプローチがこれらの課題に対して、どのような新しい解を見つけ出すことができるのか、その成果を報告します。

## program

### 開会挨拶 13:30~13:45

高村ゆかり(日本学術会議副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授)  
箕 善行(香川大学長)

### 趣旨説明 13:45~13:50

堤 英敬(日本学術会議連携会員、香川大学法学部教授)

### 講演 13:50~17:00

創発的アプローチの重要性と実践への取り組み ~ 板谷和彦(香川大学地域マネジメント研究科教授)  
ICF(国際生活機能分類)と新しい能力観を考える ~ 坂井 聡(香川大学教育学部教授)  
医療の高度化と生命をめぐる法的課題 ~ 平野美紀(香川大学法学部教授)

### 15:20~15:30 (休憩)

地方のまちなか再生をめぐる分野横断の必要性和課題点 ~ 西成典久(香川大学経済学部教授)  
災害軽減のための分野横断的アプローチ ~ 梶谷義雄(香川大学創造工学部教授)  
高齢者にとっての災害公営住宅の暮らしやすさ ~ 中島美登子(香川大学創造工学部准教授)

### 閉会挨拶 17:00~17:10

相田美砂子

(日本学術会議第三部会員、中国・四国地区会議運営協議会代表幹事、広島大学特任教授・学長特命補佐)

お問い合わせ先：香川大学 学術部研究協力課 TEL：087-832-1311 E-Mail：vuca-h@kagawa-u.ac.jp

※ 新型コロナウイルス感染症の状況次第では、延期・中止・開催方法の変更等の措置をとる場合もあります。また、感染拡大予防ガイドライン等に基づく適切な感染防止策を講じます。(参加者には、マスクの着用など、感染拡大防止対策の徹底に御協力いただきます)

※ 駐車場がありませんので、公共交通機関もしくは周辺のコインパーキングをご利用下さい。

## 令和4年度 九州・沖縄地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
運営協議会の開催	令和4年6月	書面回議	議題 日本学術会議 九州・沖縄地区会議主催 科学者懇談会・学術講演会の開催について
	令和4年11月	書面回議	議題 日本学術会議 九州・沖縄地区会議主催 科学者懇談会・学術講演会の開催について
	令和5年3月	書面回議	議題 (1) 令和4年度事業報告(案)について (2) 令和5年度事業計画(案)について
「科学者懇談会」・「学術講演会」の開催	令和4年10月13日(木)	科学者懇談会： 琉球大学  学術講演会： オンライン	琉球大学との共催により次のとおり開催した。 【科学者懇談会（非公開）】 菱田副会長、玉田代表幹事、西田学長その他の琉球大学関係者4名、計6名が出席し、菱田副会長による日本学術会議の最近の活動状況の説明後、意見交換等を行った。 【学術講演会（一般公開）】 ◇テーマ 『琉球列島の言語的・文化的多様性とその起源：多様性の今とこれから』 ◇演題・講演者 ・講演1「琉球列島の言語的多様性はどこまで維持できるか」

			<p>猪俣 繁久（琉球大学 名誉教授）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演2「琉球列島におけるヒトのゲノム多様性と移動」</li> </ul> <p>木村 亮介（琉球大学医学研究科 教授）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルディスカッション</li> </ul> <p>【コーディネーター】</p> <p>藤田 陽子（琉球大学島嶼地域科学研究所 教授）</p> <p>【パネリスト】</p> <p>猪俣 繁久、木村 亮介、山極 海嗣（琉球大学島嶼地域科学研究所 講師）、石原昌英（琉球大学国際地域創造学部 教授）、佐々木 健志（琉球大学博物館 助教）</p> <p>◇参加者 95名</p>
令和5年3月14日(火)	<p>科学者懇談会： 佐賀大学</p> <p>学術講演会： オンライン</p>	<p>佐賀大学との共催により次のとおり開催した。</p> <p>【科学者懇談会（非公開）】</p> <p>梶田会長、玉田代表幹事、兒玉学長その他の佐賀大学関係者13名、その他関係者含め計16名が出席し、梶田会長による日本学術会議の最近の活動状況の説明後、意見交換等を行った。</p> <p>【学術講演会（一般公開）】</p> <p>◇テーマ</p> <p>『潜在的なエネルギー・資源（Future Resource）に着目した学術研究』</p> <p>◇演題・講演者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演1「海洋温度差発電を核としたSDGs社会実装モデル</li> </ul>	

			<p>の構築－「KUMEJIMA MODEL」と「知の世界展開」</p> <p>池上 康之（佐賀大学海洋エネルギー研究所 所長・教授）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講演2 「超大型浮体式洋上風力発電システム技術の研究開発」</li> </ul> <p>吉田 茂雄（佐賀大学海洋エネルギー研究所 副所長・教授）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講演3 「ダイヤモンド半導体－Beyond5G、EV、宇宙応用を目指した次世代パワー半導体－」</li> </ul> <p>嘉数 誠（佐賀大学理工学部教授）</p> <p>◇参加者 134名</p>
--	--	--	--

# 琉球列島の 言語的・文化的多様性とその起源

—— 多様性の今とこれから ——



**司会進行** 千住 智信 (琉球大学工学部 教授)

## PROGRAM

### 1. 開会挨拶

菱田 公一 (日本学術会議副会長)  
西田 睦 (琉球大学学長)



### 2. 講演

狩俣 繁久 (琉球大学 名誉教授)  
「琉球列島の言語的多様性はどこまで維持できるか」

木村 亮介 (琉球大学 医学研究科 教授)  
「琉球列島におけるヒトのゲノム多様性と移動」



### 3. パネルディスカッション

議題：多様性の今とこれから

コーディネーター  
藤田 陽子 (琉球大学島嶼地域科学研究所教授)

パネリスト  
狩俣 繁久 (琉球大学名誉教授)  
木村 亮介 (琉球大学医学研究科教授)  
山極 海嗣 (琉球大学島嶼地域科学研究所講師)  
石原 昌英 (琉球大学国際地域創造学部教授)  
佐々木 健志 (琉球大学博物館助教)



### 4. 閉会挨拶

玉田 薫 (日本学術会議九州・沖縄地区会議代表幹事)



琉球列島の生物多様性はよく知られているが、琉球列島の言語や文化も生物に負けないほど多様な姿を見せる。そして生物多様性と同じように言語と文化の多様性も失われつつある。多様性を生み出した環境は多様性喪失に繋がる弱点でもある。

本シンポジウムでは言語と文化の多様性の現状と今後の課題について意見交換する。

 **オンライン開催**

2022

**10.13** (木) THU

時間 **15:00~17:00**

参加費  
**無料**

どなたでも  
ご参加できます

### 【お申し込み方法】

右記のQRコードから  
アクセスしてお申し込みください

<https://forms.office.com/r/5i7jmeWHe1>



## お問い合わせ先

琉球大学 総合企画戦略部 研究推進課 研究推進係

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地  
TEL: 098-895-8016 FAX: 098-895-8185

主催: 日本学術会議九州・沖縄地区会議 共催: 琉球大学 後援: 沖縄県、(一財) 沖縄美ら島財団

# 潜在的な Future Resource エネルギー・資源に 着目した学術研究

令和5年

3/14 火

佐賀大学

理工学部 6号館 1階講義室  
佐賀県佐賀市本庄町

14:00 - 16:15

ハイブリッド開催 | 現地&オンライン

近年、世界的に大規模な森林火災や干ばつなど、地球温暖化による気候変動を起因とする自然災害が増加しており、それにより、経済的な損失のみならず、自然環境や生態系へも様々な影響を与えています。このため、経済成長と環境保全との両立が課題となっており、これらの課題解決のため、我が国においても、温室効果ガスを発生させないグリーンエネルギーに転換することで、産業構造や社会経済を変革し、成長につなげるグリーントランスフォーメーション(GX)の推進が求められています。

そうした中で、地域社会への貢献だけに留まらず、国際社会への貢献を視野に入れたグリーンエネルギーの活用や省エネルギー化に関する学術研究の成果について紹介し、その意義について地域社会における理解を深めます。

## PROGRAM

### 14:00 — 開会挨拶

日本学術会議会長・第三部会員、東京大学宇宙線研究所・教授  
梶田 隆章

日本学術会議連携会員、佐賀大学医学部・教授  
出原 賢治

佐賀大学長  
兒玉 浩明

### 14:15 — 講演① 海洋温度差発電を核としたSDGs社会実装モデルの構築 「KUMEJIMA MODEL」と「知の世界展開」

佐賀大学海洋エネルギー研究所所長・教授  
池上 康之

### 14:55 — 講演② 超大型浮体式洋上風力発電システム技術の研究開発

佐賀大学海洋エネルギー研究所副所長・教授  
吉田 茂雄

### 15:35 — 講演③ ダイヤモンド半導体 Beyond5G、EV、宇宙応用を目指した次世代パワー半導体

佐賀大学理工学部・教授  
嘉数 誠

### 16:05 — 閉会挨拶

日本学術会議第三部会員、九州・沖縄地区会議代表幹事  
九州大学主幹教授・副学長  
玉田 薫

司会

日本学術会議連携会員、佐賀大学農学部・教授  
弓削 こずえ

「どなたでもご参加できます」

「お申し込みはコチラ！」

参加費 無料!

締切日 3/10(金)



お問い合わせ先

佐賀大学 学術研究部 研究推進課

〒840-8502 佐賀市本庄町 1

TEL.0952-28-8401 FAX.0952-28-8883

主催 日本学術会議九州・沖縄地区会議、佐賀大学

後援 佐賀県、佐賀市、伊万里市、唐津市、嬉野市、有田町、西九州大学、九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学、西九州大学短期大学部、放送大学佐賀学習センター、公益財団法人日本学術協力財団

カーボンニュートラルへの取り組み